

施策3 異文化間協働活動の推進

概要

◆これからの社会で活躍するためのベースとなるグローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力の育成に向けて、小学校段階からの系統的な「異文化間協働活動」を推進する

現 状

- ✓ 内向き志向が指摘され、留学者数は減少傾向
- ✓ 「異文化間協働活動」の機会が不足
- ✓ 姉妹校との交流ノウハウや留学プログラムが不足

10年後の目指す姿

- 各学校において「異文化間協働活動」が活発に行われ、高等学校段階で毎年1,000人以上の生徒が海外に留学するなど、グローバルな教育環境が整っている

取組のポイント

具体的なイメージ

取組① 小・中学校段階での「異文化間協働活動」の推進

◆ グローバル・キャンプなど国内での「異文化間協働活動」の機会創出

取組② 高等学校段階での「異文化間協働活動」の推進

◆ 目的やレベルに応じた短期留学プログラムの開発・提供
(ex.「異文化間協働活動」、言語スキル修得、スポーツ交流、リーダー育成 etc…)

取組③ 各学校の活動を支援する環境整備

◆ 「異文化間協働活動コーディネーター」の育成・配置 (小・中学校支援)
◆ 「留学生・帰国生支援センター」の設置・運営 (高等学校支援)

取組④ 実践的なコミュニケーション能力の育成

◆ 英語教育の抜本改革(活用を通じた「使える英語力」の修得)

<5年間のアクションプラン>

区分	H26	H27	H28	H29	H30以降
取組①	活動プログラムの開発		協力校での実践研究	本 格 運 用	
取組②	留学プログラムの開発	プログラムの運用 (留学者数の段階的拡大)		本 格 運 用	
取組③		コーディネーターの発掘・育成	試 行 運 用	本 格 運 用	
		「留学生・帰国生支援センター」設置準備	試 行 運 用	本 格 運 用	
取組④	カリキュラムの開発		実践研究 (指定校)	全 県 展 開	